

「顎口腔機能学日技指定研修」

1989年(平成元年)の全国歯科技工士教育協議会において、教育内容、年限、養成者数などの検討が始まり、1992年12月(平成4年)に「歯科技工士養成所指定規則」が改定され、歯科技工士教育の教授要綱が改められた。その中で新科目の設置が行われ、新たに登場した学科目が「顎口腔機能学」である。この新学科目には2つのポイントがあり、1つはそれまで「歯冠修復技工学」と「有床義歯技工学」の『下顎運動と咬合器』の章でそれぞれ学んでいたものを統一・整理し、「咬合の知識・咬合器の取り扱い」として示した。もう1つは顎口腔系の解剖学・生理学が歯科技工士教育に取り入れられたことである。

全国での教育開始時期に差はあるが、概ね45歳が境になる。つまり45歳以上の方々は養成機関において履修科目に入っていなかったことになる。令和2年の厚生労働省「保健衛生行政業務報告」でみると、就業歯科技工士の約7割以上の歯科技工士がこの年代であり、上記の分野に関しては履修していないのである。

そこで日本歯科大学名誉教授 小出馨教授に監修していただき、同大学講師の小出勝義先生に「日本歯技」サイエンスで2回にわたり「顎口腔機能学」をわかりやすく! の執筆をお願いした。この章をテキストとして「日技指定研修」の講演を依頼し、実施に至った。

多くの会員皆様に参加して下さい、明日からの臨床に役立てていただければ幸いです。

- 講師: 小出 馨 先生 (日本歯科大学 名誉教授)
- 演 題: これからの歯科技工に求められていること
- 講師: 森野 隆 先生 (公益社団法人 日本歯科技工士会 会長)
- 演 題: 咬合器設定のちがいによる臨床例
- 日 時: 2022年11月6日(日)10:00~13:30 (9:30受付開始)
- 定 員: 80名 (WEB: 60名・会場: 先着20名)
※会場参加の会員は、歯科技工士生涯研修カードを必ずご持参下さい。
※会場参加では定員数に達した際は、ご参加をお断りいたします。
- 会 場: 埼玉歯科技工士専門学校
〒337-0051 埼玉県さいたま市見沼区東大宮1-12-35 (TEL: 048-685-5211)
- 申 込: 埼玉県歯科技工士会ホームページ(<https://saishigi.com>)よりお申し込み下さい
※ホームページの最新情報にある告知内の【申込フォーム】より必要事項をご記入のうえお申し込み下さい。
※お申し込み後は『お申し込み確認メール』が届きます。届かない際は本会までご連絡下さい。
※ZOOM用ログインURLは、事前に本会よりメールでお知らせいたします。
※セミナー当日は、開始時間20分前までにURLをクリックして通信状態をご確認下さい。
※会場参加希望者は、本会事務局までメール・電話・FAX等でお申し込み下さい。
その際には、氏名・住所・電話番号・所属先・会員は会員番号をお知らせ下さい。
- 参加費: 無 料(すべての参加者)

『顎口腔機能学』を
わかりやすく!



日本歯科大学 名誉教授

講師:小出 馨 先生

【略歴】

1979年 日本歯科大学新潟歯学部卒業
 1983年 日本歯科大学大学院修了
 1988年 トロント大学歯学部補綴学教室客員教授(2006年まで)
 1989年 日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学教室第1講座助教授
 1998年 日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学教室第1講座主任教授
 日本歯科大学大学院新潟歯学研究科機能性咬合治療学主任教授
 1999年 日本歯科大学新潟歯学部附属病院顎関節外来統括責任者併任(2003年まで)
 2001年 日本歯科大学新潟歯学部附属病院技工科長,技工研修科長併任(2003年まで)
 2022年 日本歯科大学名誉教授

「顎口腔機能学」をわかりやすく! ~これからの歯科技工に求められていること~

医療の目的は人の健康維持です. その中で歯科医療の果たす役割は, 歯列をはじめとする顎口腔系の再建と保全による諸機能の維持増進で, 諸機能には咀嚼, 嚥下, 呼吸, 発音, 口腔感覚, 審美, 姿勢維持などが含まれます.

そして, 医療の中でも唯一歯科だけが介入できる咬合治療は, 顎口腔系のみならず全身の健康や身体運動能力に, ひいては国民の日々の生活の質や健康寿命にまで大きく影響を及ぼす極めて重要な要素です. さらに咬合は, 前頭前野をはじめとする脳機能の活性化, 生きることへの意欲の回復, 精神心理状態の改善にまで影響し, 人生の満足度の観点からも極めて重大な役割を果たしています.

また近年, 患者さんから咬合が顎関節や全身に及ぼす影響, さらにその不調和に由来する様々な症状についての問い合わせが大変多くなってきており, 患者さんの咬合と全身に対する認識が大きく変化してきていることを痛感させられます. 特に補綴による咬合治療を臨床現場で実際に行う歯科医師と歯科技工士が, 十分に認識しておかなければならない重要事項は, 顎口腔系の調和をみだす補綴治療を行ったとしても, 直後には顕著な影響は現われてこず, 治療後数ヶ月~1年以上経過してから顎関節や筋, そして全身の様々な症状や障害となって発現してくる場合が多いことです. 私達歯科医療者には, 専門領域である咬合と顎関節に関する十分な理解と治療内容の更なる高度化が強く求められているのです.

今回の研修では, 今後歯科の目指すべき方向性と, 歯科医師と歯科技工士の円滑な連携のために不可欠な「顎口腔機能学の要点」と「咬合の再構築基準」を臨床に即してお示しします. 会場に来て下さった皆様と, これからの歯科医療のあり方, その役割とやり甲斐の大きさを一緒に確認したいと思っています.

どうぞ宜しくお願い致します.



公益社団法人 日本歯科技工士会 会長

講師:森野 隆 先生

【略歴】

1984年 沼津歯科技工専門学校卒業
 1993年 歯科技工所開設
 2008年 社団法人静岡県歯科技工士会理事
 2013年 公益社団法人静岡県歯科技工士会副会長(~現在)
 2014年 公益社団法人日本歯科技工士会常務理事(教育研修・国際振興担当)
 2016年 公益社団法人日本歯科技工士会副会長(教育研修・歯科技工士労務対策担当)
 2018年 公益社団法人日本歯科技工士会副会長(教育研修・歯科技工所管理担当)
 2022年 公益社団法人日本歯科技工士会会長~現在

「顎口腔機能学」をわかりやすく! ~咬合器設定のちがいによる臨床例~

1995年に「歯科技工士教本『顎口腔機能学』」が発行され, 新たに新学科目として加わりました. その後約10年を経過した2007年に改訂されています. すなわち, 全くこの学科目を学生時代に履修していない方, 1995年から2006年までの教本で学んだ方, 2007年から2016年までの新教本, それ以降の改訂版の教本で学んだ方と4つのグループに分けることができます.

そこで今回の研修では, 「顎口腔機能学」で新たに加わった「顎口腔系の機能」、「顎口腔系の形態」に関する事項と, 2007年以降に加わった内容を紹介させていただきたいと考えております.

また, 実際の臨床での咬合器の調整機能(矢状顎路, 側方顎路, 平衡側側方顎路, 作業側側方顎路)設定の違いにより, 作成する補綴物の咬合関係にどのような影響が出るかをお見せしようと思います.

生体に調和した補綴物製作には不可欠な, 顎口腔機能の最低限の知識を少ない時間ですが提供させて頂き, 各自が自ら学ぶきっかけになって頂ければと考えております.